

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年前期～後期
科 目 名	看護学概論	単 位 数 (時間数)	2 単位 (4 5 時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	本松 美和子 (別府医療センター附属大分中央看護学校・副学校長・看護師 36 年)		
<p><科目目標> 看護の主要概念である人間・環境・健康・看護についての考え方を基盤として、看護の機能と役割及び専門職としての責務について理解する。</p> <p><内容></p>			
回	授業内容	授業方法	
1～3	1. 看護の概念 1) 「看護」の意味 2) 看護技術と看護行為 3) 看護の起源 4) 看護の変遷 5) 職業としての看護の成り立ち	講義	
4～6	1. 看護の概念 6) ナイチンゲールの看護の考え方 7) ヘンダーソンの看護の考え方 8) 看護の定義	講義	
7～9	2. 看護の対象としての人間 1) 生命体と生活体 2) 人間の基本的欲求 3) 成長と発達 4) ストレスと適応 5) ライフサイクルと発達課題、発達危機 6) 看護の対象としての個人、家族、集団、地域	講義、演習	
10～12	3. 人間を取り巻く環境と健康 1) 環境の概念 2) 健康の概念 3) 健康に影響を及ぼす要因 4) 国民の健康状態を示す指標と健康状態の動向 5) 生活と健康	講義	
13～14	4. 看護活動の場と看護の機能・役割 1) 看護の目的・目標と看護の機能 2) 看護の質保証に欠かせない要件	講義	
15	4. 看護活動の場と看護の機能・役割 3) 看護活動の場と看護職の役割 4) 保健医療福祉活動における看護職の役割	講義	
16	4. 看護活動の場と看護の機能・役割 5) 看護の継続性と地域への活動の拡大 6) 看護の機能・役割の拡大	講義	

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年前期～後期
科 目 名	看護学概論	単 位 数 (時間数)	2 単位 (4 5 時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	本松 美和子 (別府医療センター附属大分中央看護学校・副学校長・看護師 36 年)		
回	授業内容	授業方法	
17	5. 看護の理論家とその業績 1) 看護理論とは 2) 看護理論の分類 3) 看護のメタパラダイム	講義	
18～20	5. 看護の理論家とその業績 4) 看護理論家の生涯とその業績 ヘンダーソン、オレム、ペプロウ、ロイ、オーランド、ワトソン他	講義、演習	
21～22	6. 専門職としての看護職の責務 1) 専門職とは 2) 看護職の資格と法律 3) 看護職の養成制度 4) 認定看護師、専門看護師、認定看護管理者 5) 特定行為に係る看護師の研修制度 6) 看護専門職団体の役割 7) 看護者の職業倫理	講義	
23	6. 専門職としての看護職の責務 8) 看護の専門職化 9) 看護の専門家とは	講義	
<p>授業の進め方</p> <p>看護の主要概念と看護理論については、まず個人で調べ、それを持ち寄って小グループで議論をしたり、グループでまとめたものを発表する。その過程で、自分で考えること、他の人たちの意見や考えを聞くこと、自分の考えと比較することを通して、様々な考え方があることに気づき、受け入れ、自分の中に取り入れて、自分の考えを広げたり深めたりすることを体験できるようにする。全体を通して「看護とは何か」を考える機会をつくり、授業終了時には自分の言葉で、自分なりの看護についての考えを述べられるようにする。</p>			
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔1〕看護学概論, 医学書院 2. フローレンス・ナイチンゲール: 看護覚え書, 現代社 3. ヴァージニア・ヘンダーソン: 看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会 4. 黒田裕子: やさしく学ぶ看護理論 第3版, 日総研出版 5. 国民衛生の動向 2020/2021 年度版, 厚生統計協会 			
<p>評価方法</p> <p>筆記試験、レポート、演習参加状況</p>			

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年前期																					
科 目 名 (単元名)	安全を守るための技術 (事故防止・感染防止の技術)	単 位 数 (時間数)	1 単位(15 時間)																					
講 師 (所属・職位等・実務経験)	杉安 久美 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 17 年)																							
<p><科目目標> 全ての看護に共通する技術として、安全についての考え方・安全を守る技術を身につける。</p> <p><単元目標> 1. 看護における安全の意義が理解できる。 2. 安全を阻害する因子と事故防止のための基本的な行動が理解できる。 3. 感染防止のための基本的な知識を理解し、PPE・無菌操作が実施できる。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 感染防止の技術 1) 感染の成立と予防 2) 標準予防策(スタンダードプリコーション) 3) 感染経路別予防策 4) 洗浄・消毒・滅菌法 5) 感染性廃棄物の取り扱い</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2. 感染予防策の実際 1) 手指衛生 2) 個人防護用具 (PPE) の着脱 3) 感染性廃棄物の取り扱い</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3. 無菌操作 1) 無菌操作の基礎知識 2) 滅菌物の取り扱いの基本</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4～5</td> <td>4. 無菌操作の実際 1) 清潔区域の作成 2) 滅菌包装の開き方 3) 滅菌物の取り出し方 4) 鉗子・鑷子の取り扱い</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>4. 無菌操作の実際 5) 滅菌手袋の着脱</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5. 安全確保の技術 1) 安全確保の基礎知識 (1) 医療安全の概念と安全管理(セーフティマネジメント) 2) 誤薬防止 3) チューブ類の予定外抜去防止 4) 患者誤認防止 5) 転倒・転落防止 6) 薬剤・放射線曝露の防止 7) 針刺し事故防止</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	内容	授業方法	1	1. 感染防止の技術 1) 感染の成立と予防 2) 標準予防策(スタンダードプリコーション) 3) 感染経路別予防策 4) 洗浄・消毒・滅菌法 5) 感染性廃棄物の取り扱い	講義	2	2. 感染予防策の実際 1) 手指衛生 2) 個人防護用具 (PPE) の着脱 3) 感染性廃棄物の取り扱い	講義 演習	3	3. 無菌操作 1) 無菌操作の基礎知識 2) 滅菌物の取り扱いの基本	講義	4～5	4. 無菌操作の実際 1) 清潔区域の作成 2) 滅菌包装の開き方 3) 滅菌物の取り出し方 4) 鉗子・鑷子の取り扱い	講義 演習	6	4. 無菌操作の実際 5) 滅菌手袋の着脱	講義 演習	7	5. 安全確保の技術 1) 安全確保の基礎知識 (1) 医療安全の概念と安全管理(セーフティマネジメント) 2) 誤薬防止 3) チューブ類の予定外抜去防止 4) 患者誤認防止 5) 転倒・転落防止 6) 薬剤・放射線曝露の防止 7) 針刺し事故防止	講義
回	内容	授業方法																						
1	1. 感染防止の技術 1) 感染の成立と予防 2) 標準予防策(スタンダードプリコーション) 3) 感染経路別予防策 4) 洗浄・消毒・滅菌法 5) 感染性廃棄物の取り扱い	講義																						
2	2. 感染予防策の実際 1) 手指衛生 2) 個人防護用具 (PPE) の着脱 3) 感染性廃棄物の取り扱い	講義 演習																						
3	3. 無菌操作 1) 無菌操作の基礎知識 2) 滅菌物の取り扱いの基本	講義																						
4～5	4. 無菌操作の実際 1) 清潔区域の作成 2) 滅菌包装の開き方 3) 滅菌物の取り出し方 4) 鉗子・鑷子の取り扱い	講義 演習																						
6	4. 無菌操作の実際 5) 滅菌手袋の着脱	講義 演習																						
7	5. 安全確保の技術 1) 安全確保の基礎知識 (1) 医療安全の概念と安全管理(セーフティマネジメント) 2) 誤薬防止 3) チューブ類の予定外抜去防止 4) 患者誤認防止 5) 転倒・転落防止 6) 薬剤・放射線曝露の防止 7) 針刺し事故防止	講義																						

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年前期
科 目 名 (単元名)	安全を守るための技術 (事故防止・感染防止の技術)	単 位 数 (時間数)	1 単位(15 時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	杉安 久美 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 17 年)		
<p>授業の進め方</p> <p>演習においては少人数でのグループでお互いに確認できるようにする。滅菌物の取り扱いでは鑷子等の滅菌物を作成し実際に取り出し方を体験できるようにする。</p>			
<p>テキスト</p> <p>1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ(医学書院)</p> <p>2. 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術(メディックメディア)</p>			
<p>評価方法</p> <p>1. 筆記試験 2. 実技試験</p>			

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年前期						
科 目 名 (単元名)	対象把握のための技術 (観察)	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間) うち 2 時間						
講 師 (所属・職位等・実務経験)	田長丸 美和 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 23 年)								
<p><科目目標> 全ての看護に共通する対象把握のための技術を身につける。看護における観察の重要性を理解し、対象の状態を的確に判断するために必要なフィジカルアセスメント技術を身につける。さらに人間関係を成立させるためのコミュニケーション技術を身につける。</p> <p><単元目標> 1. 看護における観察の意義を理解する。 2. 観察の手段と方法を理解する。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 観察 1) 観察とは 2) 観察の目的・方法 3) 観察の視点 4) 観察の手段</td> <td>講義 演習</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 観察 1) 観察とは 2) 観察の目的・方法 3) 観察の視点 4) 観察の手段	講義 演習
回	授業内容	授業方法							
1	1. 観察 1) 観察とは 2) 観察の目的・方法 3) 観察の視点 4) 観察の手段	講義 演習							
<p>授業の進め方 観察は看護実践に不可欠な能動的な行為である。観察の技術を身につけ、これから看護者として看護の視点を持って対象者を観察し、情報収集ができるように、演習を交えながら講義を進める。</p>									
<p>テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I (医学書院)</p>									
<p>評価方法 筆記試験にて評価する。</p>									

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年前期																																				
科 目 名 (単元名)	対象把握のための技術 (フィジカルアセスメント)	単 位 数 (時間数)	1 単位 (30 時間) うち 20 時間																																				
講 師 (所属・職位等・実務経験)	田長丸 美和 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 23 年) 板井 正子 (別府医療センター・看護師 12 年) 長田 彩加 (別府医療センター・看護師 19 年)																																						
<p><科目目標></p> <p>全ての看護に共通する対象把握のための技術を身につける。看護における観察の重要性を理解し、対象の状態を的確に判断するために必要なフィジカルアセスメント技術を身につける。さらに人間関係を成立させるためのコミュニケーション技術を身につける。</p> <p><単元目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全身の系統的・体系的なアセスメントが行えるように、頭からつま先までくまなく観察していく方法を理解する。 2. 観察から得られた情報より、正常・異常の判断ができる。 <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. フィジカルアセスメントに共通する技術 1) 看護におけるフィジカルアセスメントの意義 (1) フィジカルアセスメントの方法 i. 医療面接 (インタビュー、問診) ii. 4 つの基本技術 (視診・触診・聴診・打診) iii. 身体診察 (視診、触診、聴診、打診) iv. 全身の診察 (全身の観察、バイタルサイン) v. 系統別のフィジカルアセスメント 2) 身体診察 (視診・触診・打診・聴診)</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td colspan="3">【課題 1】 第 2 回目開始までに、呼吸器の解剖図を記載して提出。</td> </tr> <tr> <td>2～3</td> <td>1. 呼吸器系のフィジカルアセスメント 1) 呼吸器系の視診・触診・打診・聴診</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td colspan="3">【課題 2】 第 4 回目開始までに、循環器の解剖図を記載して提出。</td> </tr> <tr> <td>4～5</td> <td>1. 循環器系のフィジカルアセスメント 1) 循環器系の視診・触診・打診・聴診</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td colspan="3">【課題 3】 第 6 回目開始までに、消化器の解剖図を記載して提出。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1. 消化器系のアセスメント 1) 口腔のフィジカルアセスメント 2) 腹部のフィジカルアセスメント</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>7～8</td> <td>1. バイタルサイン測定の実際</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td colspan="3">【課題 4】 第 9 回目開始までに、各神経の支配領域・働きを学習して提出。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>1. 感覚系・中枢神経系のフィジカルアセスメント 1) 感覚系・中枢神経系の視診・触診・打診</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>1. 筋・骨格のフィジカルアセスメント 1) 筋・骨格系の視診・触診</td> <td>講義 演習</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. フィジカルアセスメントに共通する技術 1) 看護におけるフィジカルアセスメントの意義 (1) フィジカルアセスメントの方法 i. 医療面接 (インタビュー、問診) ii. 4 つの基本技術 (視診・触診・聴診・打診) iii. 身体診察 (視診、触診、聴診、打診) iv. 全身の診察 (全身の観察、バイタルサイン) v. 系統別のフィジカルアセスメント 2) 身体診察 (視診・触診・打診・聴診)	講義 演習	【課題 1】 第 2 回目開始までに、呼吸器の解剖図を記載して提出。			2～3	1. 呼吸器系のフィジカルアセスメント 1) 呼吸器系の視診・触診・打診・聴診	講義 演習	【課題 2】 第 4 回目開始までに、循環器の解剖図を記載して提出。			4～5	1. 循環器系のフィジカルアセスメント 1) 循環器系の視診・触診・打診・聴診	講義 演習	【課題 3】 第 6 回目開始までに、消化器の解剖図を記載して提出。			6	1. 消化器系のアセスメント 1) 口腔のフィジカルアセスメント 2) 腹部のフィジカルアセスメント	講義 演習	7～8	1. バイタルサイン測定の実際	演習	【課題 4】 第 9 回目開始までに、各神経の支配領域・働きを学習して提出。			9	1. 感覚系・中枢神経系のフィジカルアセスメント 1) 感覚系・中枢神経系の視診・触診・打診	講義 演習	10	1. 筋・骨格のフィジカルアセスメント 1) 筋・骨格系の視診・触診	講義 演習
回	授業内容	授業方法																																					
1	1. フィジカルアセスメントに共通する技術 1) 看護におけるフィジカルアセスメントの意義 (1) フィジカルアセスメントの方法 i. 医療面接 (インタビュー、問診) ii. 4 つの基本技術 (視診・触診・聴診・打診) iii. 身体診察 (視診、触診、聴診、打診) iv. 全身の診察 (全身の観察、バイタルサイン) v. 系統別のフィジカルアセスメント 2) 身体診察 (視診・触診・打診・聴診)	講義 演習																																					
【課題 1】 第 2 回目開始までに、呼吸器の解剖図を記載して提出。																																							
2～3	1. 呼吸器系のフィジカルアセスメント 1) 呼吸器系の視診・触診・打診・聴診	講義 演習																																					
【課題 2】 第 4 回目開始までに、循環器の解剖図を記載して提出。																																							
4～5	1. 循環器系のフィジカルアセスメント 1) 循環器系の視診・触診・打診・聴診	講義 演習																																					
【課題 3】 第 6 回目開始までに、消化器の解剖図を記載して提出。																																							
6	1. 消化器系のアセスメント 1) 口腔のフィジカルアセスメント 2) 腹部のフィジカルアセスメント	講義 演習																																					
7～8	1. バイタルサイン測定の実際	演習																																					
【課題 4】 第 9 回目開始までに、各神経の支配領域・働きを学習して提出。																																							
9	1. 感覚系・中枢神経系のフィジカルアセスメント 1) 感覚系・中枢神経系の視診・触診・打診	講義 演習																																					
10	1. 筋・骨格のフィジカルアセスメント 1) 筋・骨格系の視診・触診	講義 演習																																					

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年前期
科 目 名 (単元名)	対象把握のための技術 (フィジカルアセスメント)	単 位 数 (時間数)	1 単位 (30 時間) うち 20 時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	田長丸 美和 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 23 年) 板井 正子 (別府医療センター・看護師 12 年) 長田 彩加 (別府医療センター・看護師 19 年)		
<p>授業の進め方</p> <p>ここでは、解剖生理学で学んだ体の仕組みと働きをアセスメントにつなげ、アセスメントの結果をケアや観察につなげる力を養う。講義では、視聴覚教材 (DVD) も活用し教授する。技術の習得にあたっては、聴診器や打腱器など各種測定器具を使って演習を行う。限られた時間の中で、効果的に学習が進められるよう、指定された期日に課題の提出を求める (事前学習課題、各演習終了後の課題レポート)。演習は、学生同士で演習グループを組み、患者役・看護師役を決めて実施する。</p>			
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I (医学書院) 2. 写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント (インターメディカ) 3. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院) 4. 看護 形態機能学 第 4 版 生活行動からみるからだ (日本看護協会出版会) 			
<p>評価方法</p> <p>筆記試験 実技試験 課題レポート</p>			

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年前期																		
科 目 名 (単元名)	対象把握のための技術 (コミュニケーション)	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間) うち 8 時間																		
講 師 (所属・職位等・実務経験)	杉安 久美 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 17 年)																				
<p><科目目標></p> <p>全ての看護に共通する対象把握のための技術を身につける。看護における観察の重要性を理解し、対象の状態を的確に判断するために必要なフィジカルアセスメント技術を身につける。さらに人間関係を成立させるためのコミュニケーション技術を身につける。</p> <p><単元目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの概念を理解できる。 2. 看護におけるコミュニケーションについて理解できる。 3. プロセスレコードの目的について理解できる。 <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3"> <p>【事前課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係論 I で学んだコミュニケーション過程のモデル、基本的要素、人間関係づくりのための効果的なコミュニケーションについて、講義開始前に個人のノートにまとめておく。 2. 2 回目の講義・演習が終了後、日常会話の中の一場面について、プロセスレコードを記入する。 3. 4 回目の講義・演習前までに、視聴覚教材 (事例) のコミュニケーションの場面を通してプロセスレコードを記入する。 </td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>1. コミュニケーションの意義と目的 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 3. 看護理論(ウィーディンバック)とコミュニケーション</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 5. コミュニケーション障がいへの対応</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6. 医療における信頼関係とコミュニケーション 1) 信頼関係の基本であるコミュニケーション 2) 看護師-患者関係</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>7. 看護場面におけるコミュニケーション 1) コミュニケーションとリフレクション 2) プロセスレコードによる振り返り</td> <td>講義 演習</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	<p>【事前課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係論 I で学んだコミュニケーション過程のモデル、基本的要素、人間関係づくりのための効果的なコミュニケーションについて、講義開始前に個人のノートにまとめておく。 2. 2 回目の講義・演習が終了後、日常会話の中の一場面について、プロセスレコードを記入する。 3. 4 回目の講義・演習前までに、視聴覚教材 (事例) のコミュニケーションの場面を通してプロセスレコードを記入する。 			1	1. コミュニケーションの意義と目的 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 3. 看護理論(ウィーディンバック)とコミュニケーション	講義 演習	2	4. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 5. コミュニケーション障がいへの対応	講義 演習	3	6. 医療における信頼関係とコミュニケーション 1) 信頼関係の基本であるコミュニケーション 2) 看護師-患者関係	講義 演習	4	7. 看護場面におけるコミュニケーション 1) コミュニケーションとリフレクション 2) プロセスレコードによる振り返り	講義 演習
回	授業内容	授業方法																			
<p>【事前課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係論 I で学んだコミュニケーション過程のモデル、基本的要素、人間関係づくりのための効果的なコミュニケーションについて、講義開始前に個人のノートにまとめておく。 2. 2 回目の講義・演習が終了後、日常会話の中の一場面について、プロセスレコードを記入する。 3. 4 回目の講義・演習前までに、視聴覚教材 (事例) のコミュニケーションの場面を通してプロセスレコードを記入する。 																					
1	1. コミュニケーションの意義と目的 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 3. 看護理論(ウィーディンバック)とコミュニケーション	講義 演習																			
2	4. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 5. コミュニケーション障がいへの対応	講義 演習																			
3	6. 医療における信頼関係とコミュニケーション 1) 信頼関係の基本であるコミュニケーション 2) 看護師-患者関係	講義 演習																			
4	7. 看護場面におけるコミュニケーション 1) コミュニケーションとリフレクション 2) プロセスレコードによる振り返り	講義 演習																			
<p>授業の進め方</p> <p>視聴覚教材等を用いて事前課題を提示し講義・演習を進める。コミュニケーションは、人間関係形成のうえで非常に重要な役割を担う。単に言語による会話だけでなく、コミュニケーションにおいては非言語の持つ意味も大きい。今単元では、看護の一場面から言語的・非言語的コミュニケーションを演習によって気づきを体験する。演習後は看護場面をプロセスレコードの様式に記載し、他者の言動、自分の気持ち、自分の言動を振り返る。</p> <p>人間関係論 I で学んだ人間関係づくりのための効果的なコミュニケーション技術、話す・聴く技術、グループワークの実際を活用しながら学びを深めていく。</p>																					
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I (医学書院) 																					
<p>評価方法</p> <p>筆記試験、事前課題のレポート等</p>																					

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年前期～後期
科 目 名 (単元名)	看護を展開するための技術 (看護展開技術)	単 位 数 (時間数)	1 単位 (30 時間) うち 20 時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	平川 真紀 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 14 年)		

<科目目標>

対象に必要な看護を展開するための技術を身につける。問題解決技法である看護過程展開技術、指導・教育的な関わりとしての教育・指導技術を身につける。

<単元目標>

1. 看護を展開する方法を理解できる。

<内容>

回	授業内容	授業方法
	<p>【事前課題 1】 解剖生理学で学習した「栄養の消化と吸収」、「呼吸と血液の働き」、「血液循環とその調節」、「体液の調整と尿の生成」、「内臓機能の調節」、「からだの支持と運動」、「情報の受容と処理」、「外部環境からの防御」のメカニズムに関してノートにまとめ、事前提出する。</p> <p>【事前課題 2】 講義開始前にロイ看護理論のテキストを読み、以下の内容をまとめ、提出する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ロイとはどのような人物なのか(看護理論家としての業績も含める)。 2. ロイは看護で中心的な概念(人間・環境・健康・看護)をどのように定義づけているか。 3. 生理的様式(9 項目)・自己概念様式・役割機能様式・相互依存様式に関して、患者の状態をアセスメントするために観察しておかなければならない視点をあげる。ただし、観察すべき項目のみを挙げるだけでなく、何故その観察項目が必要なのかも併せて記載する。 <p>【事前課題 3】 事例で使用する肺炎について解剖生理、病態生理、検査、治療、看護について事前学習する。</p>	
1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の概要 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護過程の定義 2) 看護過程の歴史的変遷 3) 看護過程に影響すること 4) 看護過程と問題解決法との関係 5) 看護過程におけるクリティカルシンキングとは 2. 看護過程の構成要素と関係 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護過程の構成要素 <ol style="list-style-type: none"> (1) アセスメント (2) 看護診断 (3) 計画 (4) 実施 (5) 評価 2) 看護過程の各段階の相互関係 3) 看護過程と看護診断 	講義

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年前期～後期
科 目 名 (単元名)	看護を展開するための技術 (看護展開技術)	単 位 数 (時間数)	1 単位 (30 時間) うち 20 時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	平川 真紀 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 14 年)		

回	授業内容	授業方法
2	3. ロイの理論を用いた看護過程の実際 1) ロイ適応モデルの概要 2) ロイ適応モデルの重要概念(人間, 環境, 健康, 看護) 3) ロイ適応モデルによる看護過程 (1) 第 1 段階(行動)アセスメント(生理的様式、自己概念様式、役割機能様式、相互依存様式) (2) 第 2 段階(刺激)アセスメント (3) 看護診断 (4) 目標設定 (5) 介入(介入計画・計画の実施) (6) 評価	講義
3	4. 事例紹介 5. ペーパーシミュレーション 1) 第 1 段階(行動)アセスメント演習	講義 グループワーク
4	6. 第 1 段階(行動)アセスメント演習	グループワーク
【課題 4】 第 5 回までに行動のアセスメントをまとめ、提出する。		
5	7. 第 1 段階(行動)アセスメント・・・発表とまとめ	講義
6	8. 刺激のアセスメント、関連図、看護診断の考え方 9. 第 2 段階(刺激)アセスメント・関連図・看護診断の演習	講義 グループワーク
7	10. 第 2 段階(刺激)アセスメント・関連図・看護診断の演習	グループワーク
【課題 5】 第 8 回までに刺激のアセスメント・関連図をまとめ、提出する。		
8	11. 第 2 段階(刺激)アセスメント、関連図、看護診断 発表とまとめ	講義
9	12. 介入計画についての考え方 (刺激のコントロールという視点で) 13. 介入計画の立案演習	講義 グループワーク
【課題 6】 第 10 回までに介入計画を立案し、提出する。		
10	14. 介入計画、看護の評価・・・発表とまとめ 15. 全体のまとめ	講義

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年前期～後期
科 目 名 (単元名)	看護を展開するための技術 (看護展開技術)	単 位 数 (時間数)	1 単位 (30 時間) うち 20 時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	平川 真紀 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 14 年)		
<p>授業の進め方</p> <p>看護過程の概要を講義で学習した後、骨折患者の事例を用いてペーパーシミュレーションを行う。その際、解剖生理、病態生理で学習した内容を想起させながら、ギプス固定を受ける患者の看護について教授する。</p> <p>事例展開に関しては、グループで意見を交換しながら事例を展開し、各自でまとめたレポートを基に学習の共有をはかる。看護過程展開については、初学者であるため、段階毎にまとめの時間をとって考え方を深めていく。</p>			
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学(医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器(医学書院) 3. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ(医学書院) 4. ザ・ロイ適応看護モデル第2版(医学書院) 5. 看護過程に沿った対症看護 第4版 病態生理と看護のポイント (学研) 6. NANDA-I 看護診断 定義と分類 2018/2020(医学書院) 7. 看護医学電子辞書 			
<p>評価方法</p> <p>筆記試験・レポート・授業の参加状況を総合して評価する。</p>			

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年後期									
科 目 名 (単元名)	看護を展開するための技術 (学習支援)	単 位 数 (時間数)	1単位(30 時間)うち 4 時間									
講 師 (所属・職位等・実務経験)	平川 真紀 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 14 年)											
<p><科目目標> 対象に必要な看護を展開するための技術を理解できる。問題解決技法である看護過程展開技術、指導・教育的な関わりとしての学習支援のための教育・指導技術を理解できる。</p> <p><単元目標> 1. 看護職による学習支援の意義について理解する。 2. 看護実践における学習支援の方法について理解する。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> 1. 看護における学習支援 1) 学習にかかわる諸理論 (1) アンドラゴジー、ペタゴジー (2) 健康信念モデル (3) 社会的認知理論動機付け (4) コンプライアンスと協働 (5) 自己効力感 (6) ストレスとコーピング 2) 対象者に合わせた目標設定 3) 対象者に合わせた支援方法と媒体の工夫 (1) 視聴覚教材 (2) コンピューター (3) シミュレーションモデル・標本・実物 (4) 印刷物 </td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td> 2. 個人を対象とした学習支援の特性と適用 3. 集団を対象とした学習支援の特性と適用 グループダイナミックス 4. 演習 介入計画、指導計画立案、ロールプレイ </td> <td>講義 演習</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 看護における学習支援 1) 学習にかかわる諸理論 (1) アンドラゴジー、ペタゴジー (2) 健康信念モデル (3) 社会的認知理論動機付け (4) コンプライアンスと協働 (5) 自己効力感 (6) ストレスとコーピング 2) 対象者に合わせた目標設定 3) 対象者に合わせた支援方法と媒体の工夫 (1) 視聴覚教材 (2) コンピューター (3) シミュレーションモデル・標本・実物 (4) 印刷物	講義	2	2. 個人を対象とした学習支援の特性と適用 3. 集団を対象とした学習支援の特性と適用 グループダイナミックス 4. 演習 介入計画、指導計画立案、ロールプレイ	講義 演習
回	授業内容	授業方法										
1	1. 看護における学習支援 1) 学習にかかわる諸理論 (1) アンドラゴジー、ペタゴジー (2) 健康信念モデル (3) 社会的認知理論動機付け (4) コンプライアンスと協働 (5) 自己効力感 (6) ストレスとコーピング 2) 対象者に合わせた目標設定 3) 対象者に合わせた支援方法と媒体の工夫 (1) 視聴覚教材 (2) コンピューター (3) シミュレーションモデル・標本・実物 (4) 印刷物	講義										
2	2. 個人を対象とした学習支援の特性と適用 3. 集団を対象とした学習支援の特性と適用 グループダイナミックス 4. 演習 介入計画、指導計画立案、ロールプレイ	講義 演習										
<p>授業の進め方</p> <p>私たち看護師は、疾病をもち治療を受けている人から地域で健康に過ごしている人すべての人に対し、その人のライフスタイルに応じた健康づくりを支援する機能をもっている。また、近年は高齢社会におけるライフスタイルの多様化、慢性疾患の蔓延、入院期間の短縮化がすむわが国において、看護における学習支援はますます重要な意味を持つようになってきている。ここでは、教育・指導の基本的な考え方・おすすめ方を学習する。具体的なおすすめ方は、母性看護方法論演習で教授する。教育指導の実際では学生がイメージしやすいように、学生を対象に行う集団指導についての指導計画を提示し説明を行う。</p>												
<p>テキスト・参考文献</p> <p>1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I (医学書院)</p>												
<p>評価方法</p> <p>筆記試験、授業参加状況より評価する。</p>												

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年後期												
科 目 名 (単元名)	看護を展開するための技術 (記録・報告)	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間) うち 6 時間												
講 師 (所属・職位等・実務経験)	平川 真紀 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 14 年)														
<p><科目目標> 対象に必要な看護を展開するための技術を学ぶ。問題解決技法である看護過程展開技術、指導・教育的な関わりとしての教育・指導技術を理解できる。</p> <p><単元目標> 1. 看護記録の位置づけ、種類、構成を理解する。 2. 看護記録の目的・方法および取り扱いについて理解できる。 3. 看護における報告の目的・方法について理解できる。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 医療情報と看護情報 2. 看護における情報管理 1) 記録の目的と機能 2) 必要性和種類 3) 記録の活用と管理</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>3. 看護記録の構成要素 1) 基礎情報 2) 看護計画 3) 経過記録 (1) 経時的叙述的記録 (2) POS 4) 看護サマリー 5) クリティカルパス</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4. 報告 1) 報告の意義・目的 2) 報告の種類 3) 報告の方法 4) 報告の留意点 5. 看護情報の記録・報告と共有</td> <td>講義 演習</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 医療情報と看護情報 2. 看護における情報管理 1) 記録の目的と機能 2) 必要性和種類 3) 記録の活用と管理	講義	2	3. 看護記録の構成要素 1) 基礎情報 2) 看護計画 3) 経過記録 (1) 経時的叙述的記録 (2) POS 4) 看護サマリー 5) クリティカルパス	講義 演習	3	4. 報告 1) 報告の意義・目的 2) 報告の種類 3) 報告の方法 4) 報告の留意点 5. 看護情報の記録・報告と共有	講義 演習
回	授業内容	授業方法													
1	1. 医療情報と看護情報 2. 看護における情報管理 1) 記録の目的と機能 2) 必要性和種類 3) 記録の活用と管理	講義													
2	3. 看護記録の構成要素 1) 基礎情報 2) 看護計画 3) 経過記録 (1) 経時的叙述的記録 (2) POS 4) 看護サマリー 5) クリティカルパス	講義 演習													
3	4. 報告 1) 報告の意義・目的 2) 報告の種類 3) 報告の方法 4) 報告の留意点 5. 看護情報の記録・報告と共有	講義 演習													
<p>授業の進め方 講義を中心に、一部演習（カルテの見方・記録方法等）を取り入れながら授業を進めていく。</p>															
<p>テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I (医学書院)</p>															
<p>評価方法 筆記試験</p>															

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年前期																														
科 目 名 (単元名)	日常生活援助技術 I (生活環境)	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間) うち 15 時間																														
講 師 (所属・職位等・実務経験)	大西 洋世 (別府医療センター大分中央看護学校・専任教員・看護師 20 年) 今西 友紀 (別府医療センター・看護師 5 年) 山下 久美 (別府医療センター・看護師 10 年)																																
<p><科目目標> 人々の健康と生活を理解し、患者を取り巻く生活環境を整えるための技術を身につける。活動と休息の意義と日常生活を整えるための技術を身につける。</p> <p><単元目標> 1. 健康生活の維持や疾病回復のために生活環境の果たす役割について理解する。 2. 患者が快適に生活するための環境条件と環境調整を理解する。 3. ベッドメイキングが、一人で行える。 4. 臥床患者のシーツ交換が、日常生活援助実習までに行える。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">【事前課題】 レポート課題「わたしが考える生活環境を整えるということ」について、各自でまとめ提出する。</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>1. 環境の意義 1) 療養生活の環境 2. 環境のアセスメントと環境を整える技術 1) 患者の生活環境 2) 病室内環境の構成因子と調整 3) 療養生活の安全確保</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>3. 療養環境の調整と整備 1) 校内環境の調査 (測定)</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td colspan="3">【課題 1】 レポート課題「校内環境を測定して学習したこと」は、参考文献を活用し提出する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3. 療養環境の調整と整備 2) 病床の整備 (1) ベッドメイキング</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>4～5</td> <td>4. ベッドメイキングの実際 1) ベッドメイキング</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>6～7</td> <td>4. ベッドメイキングの実際 2) 臥床患者のシーツ交換</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>5. 試験</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3">【課題演習】 レポート課題「臥床患者のシーツ交換について」看護師・患者を体験して、気づいたこと等、参考文献を活用し、提出する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>授業の進め方 講義・演習・校内実習を取り入れて授業を進めていく。物理的環境因子の理解では、様々な機器を使用し、測定しながら理解していく。見学実習で測定できるように教授する。また、ベッドメイキングでは、実習室での校内実習で実際にベッドの作成を行う。</p> <p>テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II (医学書院) 2. 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 (メディックメディア)</p> <p>評価方法 筆記試験、実技試験、レポート、授業参加状況により評価する。</p>				回	授業内容	授業方法	【事前課題】 レポート課題「わたしが考える生活環境を整えるということ」について、各自でまとめ提出する。			1	1. 環境の意義 1) 療養生活の環境 2. 環境のアセスメントと環境を整える技術 1) 患者の生活環境 2) 病室内環境の構成因子と調整 3) 療養生活の安全確保	講義	2	3. 療養環境の調整と整備 1) 校内環境の調査 (測定)	講義 演習	【課題 1】 レポート課題「校内環境を測定して学習したこと」は、参考文献を活用し提出する。			3	3. 療養環境の調整と整備 2) 病床の整備 (1) ベッドメイキング	講義 演習	4～5	4. ベッドメイキングの実際 1) ベッドメイキング	演習	6～7	4. ベッドメイキングの実際 2) 臥床患者のシーツ交換	演習	8	5. 試験		【課題演習】 レポート課題「臥床患者のシーツ交換について」看護師・患者を体験して、気づいたこと等、参考文献を活用し、提出する。		
回	授業内容	授業方法																															
【事前課題】 レポート課題「わたしが考える生活環境を整えるということ」について、各自でまとめ提出する。																																	
1	1. 環境の意義 1) 療養生活の環境 2. 環境のアセスメントと環境を整える技術 1) 患者の生活環境 2) 病室内環境の構成因子と調整 3) 療養生活の安全確保	講義																															
2	3. 療養環境の調整と整備 1) 校内環境の調査 (測定)	講義 演習																															
【課題 1】 レポート課題「校内環境を測定して学習したこと」は、参考文献を活用し提出する。																																	
3	3. 療養環境の調整と整備 2) 病床の整備 (1) ベッドメイキング	講義 演習																															
4～5	4. ベッドメイキングの実際 1) ベッドメイキング	演習																															
6～7	4. ベッドメイキングの実際 2) 臥床患者のシーツ交換	演習																															
8	5. 試験																																
【課題演習】 レポート課題「臥床患者のシーツ交換について」看護師・患者を体験して、気づいたこと等、参考文献を活用し、提出する。																																	

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年前期															
科 目 名 (単元名)	日常生活援助技術 I (日常生活リズムと姿勢・動作)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間) うち 15 時間															
講 師 (所属・職位等・実務経験)	田尻 朝恵 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 12 年)																	
<p><科目目標> 人々の健康と生活を理解し、患者を取り巻く生活環境を整えるための技術を身につける。活動と休息の意義と日常生活を整えるための技術を身につける。</p> <p><単元目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活リズムにおける活動と運動の意義とメカニズムを理解できる。 2. 日常生活リズムにおける休息と睡眠の意義とメカニズムを理解できる。 3. 活動と運動への援助が理解できる。 4. 休息と睡眠への援助が理解できる。 5. ボディメカニクスを活用し、安全で安楽な姿勢と体位を保つ援助ができる。 6. 苦痛の緩和・安楽確保の技術としての罨法の意義や目的を理解し、罨法の援助ができる。 <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 活動と(運動)の意義 2. 活動と運動の援助の基礎知識 1) 活動・運動の生理学的メカニズム 2) 活動と運動に影響する要因 3) 活動・運動のアセスメント 4) 活動と運動を促す援助</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2～3</td> <td>3. 活動と運動を促す援助の基礎知識 1) よい姿勢 2) ボディメカニクスの基本原理 3) 体位保持(ポジショニング)の基礎知識 4) 体位変換の基礎知識 5) 床上運動 6) 移動(歩行介助)の基礎知識 7) 移乗・移送(車椅子、ストレッチャー)の基礎知識</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4. 活動と運動を促す援助の実際 1) 体位保持(座位保持、起立動作の援助) 2) 体位変換 3) 移動(歩行介助) 4) 移乗(車椅子・ストレッチャー) 5) 移送(車椅子・ストレッチャー)</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5. 苦痛の緩和・安楽確保の援助 1) 安楽の意義 2) 援助の基礎知識 (1) 体温管理・保温の援助 (2) 罨法の基礎知識 i. 罨法の意義 ii. 罨法の種類と目的 (3) 身体ケアを通じてもたされる安楽</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 活動と(運動)の意義 2. 活動と運動の援助の基礎知識 1) 活動・運動の生理学的メカニズム 2) 活動と運動に影響する要因 3) 活動・運動のアセスメント 4) 活動と運動を促す援助	講義	2～3	3. 活動と運動を促す援助の基礎知識 1) よい姿勢 2) ボディメカニクスの基本原理 3) 体位保持(ポジショニング)の基礎知識 4) 体位変換の基礎知識 5) 床上運動 6) 移動(歩行介助)の基礎知識 7) 移乗・移送(車椅子、ストレッチャー)の基礎知識	講義	4	4. 活動と運動を促す援助の実際 1) 体位保持(座位保持、起立動作の援助) 2) 体位変換 3) 移動(歩行介助) 4) 移乗(車椅子・ストレッチャー) 5) 移送(車椅子・ストレッチャー)	演習	5	5. 苦痛の緩和・安楽確保の援助 1) 安楽の意義 2) 援助の基礎知識 (1) 体温管理・保温の援助 (2) 罨法の基礎知識 i. 罨法の意義 ii. 罨法の種類と目的 (3) 身体ケアを通じてもたされる安楽	講義
回	授業内容	授業方法																
1	1. 活動と(運動)の意義 2. 活動と運動の援助の基礎知識 1) 活動・運動の生理学的メカニズム 2) 活動と運動に影響する要因 3) 活動・運動のアセスメント 4) 活動と運動を促す援助	講義																
2～3	3. 活動と運動を促す援助の基礎知識 1) よい姿勢 2) ボディメカニクスの基本原理 3) 体位保持(ポジショニング)の基礎知識 4) 体位変換の基礎知識 5) 床上運動 6) 移動(歩行介助)の基礎知識 7) 移乗・移送(車椅子、ストレッチャー)の基礎知識	講義																
4	4. 活動と運動を促す援助の実際 1) 体位保持(座位保持、起立動作の援助) 2) 体位変換 3) 移動(歩行介助) 4) 移乗(車椅子・ストレッチャー) 5) 移送(車椅子・ストレッチャー)	演習																
5	5. 苦痛の緩和・安楽確保の援助 1) 安楽の意義 2) 援助の基礎知識 (1) 体温管理・保温の援助 (2) 罨法の基礎知識 i. 罨法の意義 ii. 罨法の種類と目的 (3) 身体ケアを通じてもたされる安楽	講義																

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年前期
科 目 名 (単元名)	日常生活援助技術 I (日常生活リズムと姿勢・動作)	単位数 (時間数)	1 単位(30 時間) うち 15 時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	田尻 朝恵 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 12 年)		

回	授業内容	授業方法
6	6. 褥法の援助の実際 1) 褥法(冷褥法・温褥法)	演習
7	7. 睡眠と休息の援助 1) 休息と睡眠の意義 2) 休息と睡眠に影響する要因 3) 休息と睡眠のアセスメント 4) 休息と睡眠を促す援助 5) 療養生活におけるレクリエーション	講義
8	8. 試験	

授業の進め方

日常生活リズムにおける活動と運動、睡眠と休息について、人体の構造と機能、生態から考える。また演習を実施して、学生自身の体験学習をとおして援助の方法を学習する。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ(医学書院)
2. 看護がみえる vol.1 基礎看護技術(メディックメディア)
3. 看護 形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ(日本看護協会出版会)

評価方法

筆記試験、レポート、授業参加状況 以上より総合的に評価する。

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年前期～後期																					
科 目 名 (単元名)	日常生活援助技術Ⅱ (身体の清潔・衣生活)	単 位 数 (時間数)	2 単位(60 時間) うち 28 時間																					
講 師 (所属・職位等・実務経験)	田尻 朝恵 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 12 年) 川上 千尋 (別府医療センター・看護師 8 年) 糸永 由佳里 (別府医療センター・看護師 4 年)																							
<p><科目目標> 人々の健康と生活を理解し、患者を取り巻く生活環境を整えるための技術を身につける。</p> <p><単元目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 衣生活の意義を理解できる。 2. 病衣の条件と選択方法を理解できる。 3. 衣服の交換方法が理解できる。 4. 清潔の意義について理解できる。 5. 清潔保持の種類と方法が理解できる。 6. 臥床患者の寝衣交換ができる。 7. 臥床患者の全身清拭が行える。 8. 臥床患者の洗髪が行える。 <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3"> 【事前課題 1】 ※課題の時期等は開講時期に指示する。 「皮膚・粘膜・毛髪 of 構造と機能」「洗剤の作用」について </td> </tr> <tr> <td>1</td> <td> 1. 清潔の意義 2. 皮膚・粘膜の構造と機能 3. 湯の作用と洗剤の作用と種類 4. 清潔に影響する要因 </td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td> 5. 清潔のアセスメント 6. 患者の状態に応じた援助の決定と留意点 1) 様々な清潔援助の種類と方法 2) 患者の自立度に応じた援助 7. 入浴シャワー浴の意義と実際 </td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td> 8. 衣生活の意義 9. 衣生活に影響する要因 10. 衣生活のアセスメント 1) 衣服の選択と条件 2) 患者の自立度に応じた援助 </td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>4～5</td> <td> 11. 衣服の交換 1) 浴衣の交換 2) パジャマの交換 </td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>6～7</td> <td> 12. 被頭髪部の清潔 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際(演習) (1) ケリーパッドを使用した臥床患者の洗髪 (2) 洗髪車・洗髪台を用いた洗髪 </td> <td>講義 演習</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	【事前課題 1】 ※課題の時期等は開講時期に指示する。 「皮膚・粘膜・毛髪 of 構造と機能」「洗剤の作用」について			1	1. 清潔の意義 2. 皮膚・粘膜の構造と機能 3. 湯の作用と洗剤の作用と種類 4. 清潔に影響する要因	講義	2	5. 清潔のアセスメント 6. 患者の状態に応じた援助の決定と留意点 1) 様々な清潔援助の種類と方法 2) 患者の自立度に応じた援助 7. 入浴シャワー浴の意義と実際	講義 演習	3	8. 衣生活の意義 9. 衣生活に影響する要因 10. 衣生活のアセスメント 1) 衣服の選択と条件 2) 患者の自立度に応じた援助	演習	4～5	11. 衣服の交換 1) 浴衣の交換 2) パジャマの交換	講義 演習	6～7	12. 被頭髪部の清潔 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際(演習) (1) ケリーパッドを使用した臥床患者の洗髪 (2) 洗髪車・洗髪台を用いた洗髪	講義 演習
回	授業内容	授業方法																						
【事前課題 1】 ※課題の時期等は開講時期に指示する。 「皮膚・粘膜・毛髪 of 構造と機能」「洗剤の作用」について																								
1	1. 清潔の意義 2. 皮膚・粘膜の構造と機能 3. 湯の作用と洗剤の作用と種類 4. 清潔に影響する要因	講義																						
2	5. 清潔のアセスメント 6. 患者の状態に応じた援助の決定と留意点 1) 様々な清潔援助の種類と方法 2) 患者の自立度に応じた援助 7. 入浴シャワー浴の意義と実際	講義 演習																						
3	8. 衣生活の意義 9. 衣生活に影響する要因 10. 衣生活のアセスメント 1) 衣服の選択と条件 2) 患者の自立度に応じた援助	演習																						
4～5	11. 衣服の交換 1) 浴衣の交換 2) パジャマの交換	講義 演習																						
6～7	12. 被頭髪部の清潔 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際(演習) (1) ケリーパッドを使用した臥床患者の洗髪 (2) 洗髪車・洗髪台を用いた洗髪	講義 演習																						

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年前期～後期
科 目 名 (単元名)	日常生活援助技術 II (身体の清潔・衣生活)	単 位 数 (時間数)	2 単位 (60 時間) うち 28 時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	田尻 朝恵 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 12 年) 川上 千尋 (別府医療センター・看護師 8 年) 糸永 由佳里 (別府医療センター・看護師 4 年)		
回	授業内容	授業方法	
8～11	13. 臥床患者の全身清拭 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際(演習)	講義 演習	
12	14. 足浴・手浴(部分浴) 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際(足浴演習)	講義 演習	
13	15. 陰部洗浄 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際(演習)	講義 演習	
14	16. 整容 1) 援助の基礎知識(洗面、眼・鼻・耳の清潔、爪切り、髭剃り、口腔ケア) 2) 援助の実際(演習) (1) 口腔ケア (2) 顔面清拭	講義 演習	
<p>授業の進め方</p> <p>事前学習と第 1 回の講義で、皮膚・粘膜の構造と機能、洗浄剤の作用について学習し、身体の清潔と衣生活の意義とその方法について学習する。清潔ケアの方法と患者の状態に応じた援助について学習したうえで、具体的な援助について講義・演習で習得していく。演習時は、始めに援助の目的・根拠・方法・留意点を講義・デモンストレーションで教授後、グループで演習を行う。</p>			
<p>テキスト</p> <p>1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II (医学書院) 2. 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第 1 版(メディックメディア)</p>			
<p>評価方法</p> <p>1. 筆記試験および課題のレポート内容 2. 講義、グループワーク、演習受講態度をもって評価とする。 3. 実技試験(技術試験内容は講義開始時に提示する)</p>			

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1年後期
科 目 名 (単元名)	日常生活援助技術Ⅱ (食事・栄養の援助技術)	単 位 数 (時間数)	2 単位 (60 時間) うち 12 時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	山元 清子 (別府医療センター大分中央看護学校・専任教員・看護師 23 年) 中村 恵 (別府医療センター・看護師 5 年) 大塚 佳奈 (別府医療センター・看護師 3 年)		
<科目目標> 人々の健康と生活を理解し、患者を取り巻く生活環境を整えるための技術を身につける。			
<単元目標> 1. 食事と栄養の意義を理解する。 2. 摂食・嚥下機能の正常と異常について理解する。 3. 食事を摂取する機能の障害が対象に及ぼす影響を理解する。 4. 食事援助の種類と方法について理解する。 5. 摂食動作に障害がある患者の食事介助を身につける。 6. 経管栄養法の目的と方法について理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	
【事前課題】 ※課題の時期等は開講時期に指示する。 1. 口腔・咽頭・食道・腹部消化管の構造と機能について 2. 自分の食生活や栄養状態を評価し、レポート提出する。			
1	1. 食事と栄養の意義 2. 食欲と食行動 3. 食事と栄養に関する基礎 1) 人間に必要な栄養素 2) 食事摂取基準 4. 栄養状態の評価	講義	
2	5. 栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメントと評価 6. 医療施設で提供される食事の種類と形態 7. 食事摂取の介助 1) 援助の基礎知識	講義	
3	7. 食事介助の援助 食事摂取の自立困難な人への援助 2) 援助の実際	演習	
4	8. 摂食・嚥下訓練 嚥下障害のある人への援助 1) 援助の基礎知識 (1) 直接訓練 (2) 間接訓練 2) 援助の実際 (1) 実施前の評価 (2) 嚥下検査	講義	
5	9. 非経口的栄養摂取の援助 1) 経管(経腸)栄養法 2) 経静脈栄養法	講義	
6	10. 経管栄養法 1) 胃管挿入(経鼻栄養法)の方法 2) 栄養物の注入 3) 滴下速度の調整	演習	

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年後期
科 目 名 (単元名)	日常生活援助技術 II (食事・栄養の援助技術)	単 位 数 (時間数)	2 単位 (60 時間) うち 12 時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	山元 清子 (別府医療センター大分中央看護学校・専任教員・看護師 23 年) 中村 恵 (別府医療センター・看護師 5 年) 大塚 佳奈 (別府医療センター・看護師 3 年)		
授業の進め方 講義形式とグループワーク、ビデオ学習、演習(校内実習)、模擬練習(学生同士)を行う。			
テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II (医学書院) 2. 看護がみえる vol.1 基礎看護技術(メディックメディア) 3. 看護がみえる vol.2 臨床看護技術(メディックメディア)			
評価方法 筆記試験および講義、演習への参加状況で評価する			

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年後期																					
科 目 名 (単元名)	日常生活援助技術Ⅱ (排泄の援助技術)	単位数 (時間数)	2 単位 (60 時間) うち 20 時間																					
講 師 (所属・職位等・実務経験)	山元 清子 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 23 年) 友松 葵 (別府医療センター・看護師 3 年) 佐藤 千尋 (別府医療センター・看護師 4 年)																							
<p><科目目標> 人々の健康と生活を理解し、患者を取り巻く生活環境を整えるための技術を身につける。</p> <p><単元目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 排泄の意義を理解できる。 2. 排泄および排泄行動の正常と異常について理解できる。 3. 排泄援助の種類と方法について理解できる。 4. 排泄介助時の留意点について理解できる。 5. 臥床患者に尿器・便器を正しく当てることができる。 6. グリセリン浣腸を安全に実施することができる。 7. 一時的導尿を安全・安楽に実施することができる。 <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1～2 3～4</td> <td>1. 排泄の意義 2. 排泄に影響する要因 3. 排泄のアセスメント 4. 排泄の援助 1) 援助を受ける対象の心理 2) 排泄援助の原則と留意点 (1) 床上での排泄の援助 (2) 尿失禁・便失禁がある患者のオムツを用いた援助 (3) ポータブルトイレ・トイレでの援助 (4) 自然排尿・排便を促す援助</td> <td>講義 演習 (グループ ワーク)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5. 排泄援助の実際 1) 便器・尿器の種類と援助の実施</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>6. 自然な排泄が困難な人への援助 1) 浣腸・摘便の目的と種類 (1) グリセリン浣腸 (2) 摘便</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td> 2) グリセリン浣腸の実施と援助</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>6. 自然な排泄が困難な人への援助 3) 導尿の目的と種類 (1) 一時的導尿 (2) 持続的導尿 4) 膀胱留置カテーテルの管理の方法と留意点</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>9～10</td> <td>5) 一時的導尿の実施と援助</td> <td>演習</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1～2 3～4	1. 排泄の意義 2. 排泄に影響する要因 3. 排泄のアセスメント 4. 排泄の援助 1) 援助を受ける対象の心理 2) 排泄援助の原則と留意点 (1) 床上での排泄の援助 (2) 尿失禁・便失禁がある患者のオムツを用いた援助 (3) ポータブルトイレ・トイレでの援助 (4) 自然排尿・排便を促す援助	講義 演習 (グループ ワーク)	5	5. 排泄援助の実際 1) 便器・尿器の種類と援助の実施	演習	6	6. 自然な排泄が困難な人への援助 1) 浣腸・摘便の目的と種類 (1) グリセリン浣腸 (2) 摘便	講義	7	2) グリセリン浣腸の実施と援助	演習	8	6. 自然な排泄が困難な人への援助 3) 導尿の目的と種類 (1) 一時的導尿 (2) 持続的導尿 4) 膀胱留置カテーテルの管理の方法と留意点	講義	9～10	5) 一時的導尿の実施と援助	演習
回	授業内容	授業方法																						
1～2 3～4	1. 排泄の意義 2. 排泄に影響する要因 3. 排泄のアセスメント 4. 排泄の援助 1) 援助を受ける対象の心理 2) 排泄援助の原則と留意点 (1) 床上での排泄の援助 (2) 尿失禁・便失禁がある患者のオムツを用いた援助 (3) ポータブルトイレ・トイレでの援助 (4) 自然排尿・排便を促す援助	講義 演習 (グループ ワーク)																						
5	5. 排泄援助の実際 1) 便器・尿器の種類と援助の実施	演習																						
6	6. 自然な排泄が困難な人への援助 1) 浣腸・摘便の目的と種類 (1) グリセリン浣腸 (2) 摘便	講義																						
7	2) グリセリン浣腸の実施と援助	演習																						
8	6. 自然な排泄が困難な人への援助 3) 導尿の目的と種類 (1) 一時的導尿 (2) 持続的導尿 4) 膀胱留置カテーテルの管理の方法と留意点	講義																						
9～10	5) 一時的導尿の実施と援助	演習																						

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1 年後期
科 目 名 (単元名)	日常生活援助技術 II (排泄の援助技術)	単位数 (時間数)	2 単位 (60 時間) うち 20 時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	山元 清子 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 23 年) 友松 葵 (別府医療センター・看護師 3 年) 佐藤 千尋 (別府医療センター・看護師 4 年)		
<p>授業の進め方</p> <p>講義、グループワーク、DVDなど視聴覚教材、デモンストレーション、模擬練習(学生同士)体験学習やグループワークを取り入れながら理解を深めていく。</p> <p>援助を受ける対象の心理をふまえ、看護師としての必要な態度を身につける。また、身体侵襲を伴う可能性のある援助(浣腸・一時的導尿)については、安全面でも十分検討する。</p>			
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II (医学書院) 2. 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版(メディックメディア) 3. 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版(メディックメディア) 			
<p>評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 2. 実技試験(技術試験内容は講義開始時に提示する) 3. 演習の取り組み(レポート) 			

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1年後期
科 目 名	日常生活援助実習	単 位 数 (時間数)	1 単位 (45 時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	杉安 久美 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 17 年)		
<p><科目目標></p> <p>【見学実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の療養環境が理解できる。 2. 看護活動の実際が理解できる。 3. 患者がどのような気持ちで生活しているか理解できる。 <p>【日常生活援助実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者に必要な日常生活援助を理解できる。 2. 患者に必要な日常生活援助を指導者と共に実施できる。 3. 受け持ち患者とコミュニケーションをとることができ、良好な人間関係を保つことができる。 4. 看護実践を通して、援助の意味を考えることができる。 5. 保健・医療チームの一員としての自覚をもち、専門職業人として望ましい態度がとれる。 <p><学習内容></p> <p>【見学実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師とともに行動しながら、入院患者への日常生活援助。 2. 患者の生活している病床環境の理解。 3. 患者と接し会話することで看護の役割や患者の生活、気持ちの理解。 <p>【日常生活援助実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎看護学で学んだ知識・技術・態度を統合させ、患者に基本的な日常生活の援助の実施。 2. 患者に必要な援助は何かの理解。 3. 患者の生活を知り、健康障がい生活に及ぼす影響。 4. 看護師と共に日々看護を実践していく中で、今患者が必要としている援助。 5. 原理原則に基づく援助に患者の個性を加味し、患者に合った日常生活援助。 6. 日々行った援助を振り返り、体験の意味づけ。 7. 援助を円滑に実施できるよう、コミュニケーション技法を活用し、良好な人間関係の形成。 8. 保健医療チームの一員であることを自覚した責任ある行動。 <p>※詳細は日常生活援助実習実習要項に準ずる。</p>			
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [1] 看護学概論 (医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I (医学書院) 3. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II (医学書院) 4. 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 (医学書院) 5. 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 (メディックメディア) 6. 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 (メディックメディア) 7. ザ・ロイ適応看護モデル 第2版 (医学書院) 8. 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 第2版 (学研) 9. 看護過程に沿った対症看護 第5版 (学研) <p>他 既習のテキストを活用する。</p>			

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	1年後期
科 目 名	日常生活援助実習	単 位 数 (時間数)	1単位 (45時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	杉安 久美 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 17年)		
<p>評価方法</p> <p>学則細則第9条「授業科目の評価は講義・演習の授業科目について定期試験と随時試験によって行い、実習の授業科目については平素の実習状況及び内容、提出された諸記録、レポート等を総合して指導者が行う。」に準じて評価する。</p> <p>履修規定第 12 条3項「実習終了後は指定された期日までに指定のレポート類を提出しなければならない。期日までに提出せず放棄したとみなされる場合は、実習評価表のレポートに関する項目の評定を受けることができない。忌引きその他やむを得ない理由で指定された期日に提出できない場合は期限を指定する。</p>			

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	2年前期～後期																																	
科 目 名	看護研究	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間)																																	
講 師 (所属・職位等・実務経験)	首藤 眞奈美 (別府医療センター附属大分中央看護学校・教育主事・看護師 34 年)																																			
<p><科目目標> 看護における研究の意義、看護研究の方法の基礎を理解し、文献の収集や文献の読み方について演習をとおして理解を深める。事例研究をとおして研究のプロセスの理解と科学的思考を育成する。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 看護における研究の意義 1) 研究とは 2) 看護における研究の意義 3) 看護研究の動向</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2. 看護における研究疑問 1) 研究疑問とは 2) 研究テーマを明確にするプロセス</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3. 看護研究における倫理 1) 研究を行う上で配慮すべき倫理的問題 2) 看護研究における倫理指針 3) 倫理的問題の対応</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4. 研究デザイン 1) 研究デザインとは 2) 量的研究と質的研究の特徴 3) 量的研究と質的研究のプロセス</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>4. 研究デザイン 4) 事例研究の方法</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5. 文献検索と文献検討 1) 文献とは 2) 文献検索および文献検討の必要性 3) 文献検索の方法 4) 一次文献と二次文献</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5. 文献検索と文献検討 5) 文献検索の実際</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>6. 看護研究のクリティーク 1) クリティークとは 2) クリティークの意義 3) クリティークの方法 4) クリティークの実際</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>7. 研究計画書の作成 1) 研究計画書の作成意義 2) 研究計画書の構成要素</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>7. 研究計画書の作成 3) 研究計画書作成の実際</td> <td>演習</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 看護における研究の意義 1) 研究とは 2) 看護における研究の意義 3) 看護研究の動向	講義	2	2. 看護における研究疑問 1) 研究疑問とは 2) 研究テーマを明確にするプロセス	講義・演習	3	3. 看護研究における倫理 1) 研究を行う上で配慮すべき倫理的問題 2) 看護研究における倫理指針 3) 倫理的問題の対応	講義	4	4. 研究デザイン 1) 研究デザインとは 2) 量的研究と質的研究の特徴 3) 量的研究と質的研究のプロセス	講義・演習	5	4. 研究デザイン 4) 事例研究の方法	講義	6	5. 文献検索と文献検討 1) 文献とは 2) 文献検索および文献検討の必要性 3) 文献検索の方法 4) 一次文献と二次文献	講義	7	5. 文献検索と文献検討 5) 文献検索の実際	講義・演習	8	6. 看護研究のクリティーク 1) クリティークとは 2) クリティークの意義 3) クリティークの方法 4) クリティークの実際	講義・演習	9	7. 研究計画書の作成 1) 研究計画書の作成意義 2) 研究計画書の構成要素	講義・演習	10	7. 研究計画書の作成 3) 研究計画書作成の実際	演習
回	授業内容	授業方法																																		
1	1. 看護における研究の意義 1) 研究とは 2) 看護における研究の意義 3) 看護研究の動向	講義																																		
2	2. 看護における研究疑問 1) 研究疑問とは 2) 研究テーマを明確にするプロセス	講義・演習																																		
3	3. 看護研究における倫理 1) 研究を行う上で配慮すべき倫理的問題 2) 看護研究における倫理指針 3) 倫理的問題の対応	講義																																		
4	4. 研究デザイン 1) 研究デザインとは 2) 量的研究と質的研究の特徴 3) 量的研究と質的研究のプロセス	講義・演習																																		
5	4. 研究デザイン 4) 事例研究の方法	講義																																		
6	5. 文献検索と文献検討 1) 文献とは 2) 文献検索および文献検討の必要性 3) 文献検索の方法 4) 一次文献と二次文献	講義																																		
7	5. 文献検索と文献検討 5) 文献検索の実際	講義・演習																																		
8	6. 看護研究のクリティーク 1) クリティークとは 2) クリティークの意義 3) クリティークの方法 4) クリティークの実際	講義・演習																																		
9	7. 研究計画書の作成 1) 研究計画書の作成意義 2) 研究計画書の構成要素	講義・演習																																		
10	7. 研究計画書の作成 3) 研究計画書作成の実際	演習																																		

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	2 年前期～後期
科 目 名	看護研究	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	首藤 眞奈美 (別府医療センター附属大分中央看護学校・教育主事・看護師 34 年)		

回	授業内容	授業方法
11	8. 看護実践の事例検討 1) 事例研究の実際	演習 (担当教員による指導)
12	8. 看護実践の事例検討 1) 事例研究の実際	演習 (担当教員による指導)
13	8. 看護実践の事例検討 1) 事例研究の実際：発表	演習
14	8. 看護実践の事例検討 1) 事例研究の実際：発表	演習
15	8. 看護実践の事例検討 1) 事例研究の実際：総評	演習

授業の進め方

看護における研究の意義や方法についてはテキストや文献をもとに説明を行う。文献検索は Web 版医学中央雑誌を用いて、実際に行い方法を理解する。文献検討については、クリティークを行い批判的思考に基づく研究の質や信頼度を検討するプロセスを理解する。基礎看護学実習で担当した患者への看護実践を事例研究としてまとめ、発表会を行う。

テキスト

1. 黒田裕子著：黒田裕子の看護研究 Step by Step 第5版, 医学書院, 2017
2. 松本 孚, 森田 夏実編：看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方, 照林社, 2014

評価方法

1. クリティーク課題, 2. 研究計画書, 3. 事例研究の論文によって評価する。
- 評価の視点の詳細については、初回講義時に説明する。

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	2 年前期									
科 目 名 (単元名)	診療時援助技術 (診察と看護)	単 位 数 (時間数)	2 単位(60 時間) うち 4 時間									
講 師 (所属・職位等・実務経験)	上野 敏幸 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 13 年)											
<p><科目目標> 診療援助時に患者が安全・安楽に診察・検査・治療・処置を受けるために必要な知識・援助の技術を身につける。</p> <p><単元目標> 1. 診察を受ける人の心理を考え、看護師の役割を理解できる。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 診察と看護 1) 診察の目的と方法 2) 診察を受ける人の心理 3) 診察時の看護師の役割</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4) 診察時の援助方法と留意点</td> <td>講義 演習</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 診察と看護 1) 診察の目的と方法 2) 診察を受ける人の心理 3) 診察時の看護師の役割	講義 演習	2	4) 診察時の援助方法と留意点	講義 演習
回	授業内容	授業方法										
1	1. 診察と看護 1) 診察の目的と方法 2) 診察を受ける人の心理 3) 診察時の看護師の役割	講義 演習										
2	4) 診察時の援助方法と留意点	講義 演習										
<p>授業の進め方 患者が安全・安楽に診察を受けるために必要な援助技術を学習する。診察の場面設定を行ない、ロールプレイにて援助方法を考えていく。診療時援助技術に関する法律での規制等に関しては、関係法規及び臨床看護総論にておさえる。</p>												
<p>テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II (医学書院)</p>												
<p>評価方法 筆記試験</p>												

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	2 年前期												
科 目 名 (単元名)	診療時援助技術 (検査と看護)	単 位 数 (時間数)	2 単位 (60 時間) うち 14 時間												
講 師 (所属・職位等・実務経験)	野中 智恵 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 15 年) 竜田 あすみ (別府医療センター・副看護師長・看護師 10 年) 作田 咲恵 (別府医療センター・看護師 14 年) 平山 治美 (別府医療センター・看護師 12 年)														
<p><科目目標> 診療援助時に患者が安全・安楽に診察・検査・治療・処置をうけるために必要な知識・援助の技術を身につける。</p> <p><単元目標> 1. 検査の目的を理解し、検査時の介助方法と留意点を理解できる。 2. モデル人形を用いて安全に真空管採血が実施できる。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1～3</td> <td> 1. 検査と看護 1) 検査の意義と目的 2) 検査時の看護師の役割 3) 検査時の援助方法と留意点 (1) 生体検査 (X線、MR I、CT、血管造影、心電図、内視鏡、超音波、脳波、呼吸機能検査、など) (2) 経皮的動脈血酸素飽和度 (SPO₂) (3) 検体 (尿、便、痰、血液など) の採取方法と取り扱い </td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td colspan="3"> 【課題 1】 血液検査の実際に入る前までに以下の課題を行うこと 「安全を守るための技術で学習した内容の復習」 1. 感染防止の技術：感染予防の原則、スタンダードプリコーション 2. 感染予防の種類と方法：感染経路別予防策、消毒法と滅菌法 3. 感染予防の実際：無菌操作、個人防護用具の着脱、感染廃棄物の取り扱い 【課題 2】 採血技術演習に入る前までに以下の課題を行うこと 1. 上腕にある静脈及び神経の走行 </td> </tr> <tr> <td>4～7</td> <td> 2. 血液検査の実際 1) 注射器および注射針の種類と選択、注射器の取り扱い、注射器を用いた採血方法 (デモンストレーション) 2) 真空管採血 (デモンストレーション、演習) </td> <td>講義 演習</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1～3	1. 検査と看護 1) 検査の意義と目的 2) 検査時の看護師の役割 3) 検査時の援助方法と留意点 (1) 生体検査 (X線、MR I、CT、血管造影、心電図、内視鏡、超音波、脳波、呼吸機能検査、など) (2) 経皮的動脈血酸素飽和度 (SPO ₂) (3) 検体 (尿、便、痰、血液など) の採取方法と取り扱い	講義 演習	【課題 1】 血液検査の実際に入る前までに以下の課題を行うこと 「安全を守るための技術で学習した内容の復習」 1. 感染防止の技術：感染予防の原則、スタンダードプリコーション 2. 感染予防の種類と方法：感染経路別予防策、消毒法と滅菌法 3. 感染予防の実際：無菌操作、個人防護用具の着脱、感染廃棄物の取り扱い 【課題 2】 採血技術演習に入る前までに以下の課題を行うこと 1. 上腕にある静脈及び神経の走行			4～7	2. 血液検査の実際 1) 注射器および注射針の種類と選択、注射器の取り扱い、注射器を用いた採血方法 (デモンストレーション) 2) 真空管採血 (デモンストレーション、演習)	講義 演習
回	授業内容	授業方法													
1～3	1. 検査と看護 1) 検査の意義と目的 2) 検査時の看護師の役割 3) 検査時の援助方法と留意点 (1) 生体検査 (X線、MR I、CT、血管造影、心電図、内視鏡、超音波、脳波、呼吸機能検査、など) (2) 経皮的動脈血酸素飽和度 (SPO ₂) (3) 検体 (尿、便、痰、血液など) の採取方法と取り扱い	講義 演習													
【課題 1】 血液検査の実際に入る前までに以下の課題を行うこと 「安全を守るための技術で学習した内容の復習」 1. 感染防止の技術：感染予防の原則、スタンダードプリコーション 2. 感染予防の種類と方法：感染経路別予防策、消毒法と滅菌法 3. 感染予防の実際：無菌操作、個人防護用具の着脱、感染廃棄物の取り扱い 【課題 2】 採血技術演習に入る前までに以下の課題を行うこと 1. 上腕にある静脈及び神経の走行															
4～7	2. 血液検査の実際 1) 注射器および注射針の種類と選択、注射器の取り扱い、注射器を用いた採血方法 (デモンストレーション) 2) 真空管採血 (デモンストレーション、演習)	講義 演習													
授業の進め方 1. 講義 2. 演習 1) 尿検査は春季健康診断を通して実践を行う。 2) 血液検査の実際は、モデル人形、シミュレーターを使用しての校内実習を行う。															
テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II (医学書院) 2. 看護技術がみえる Vol. 2 臨床看護技術 第 1 版 (メディックメディア)															
評価方法 1. 筆記試験 2. 実技試験															

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	2年前期～後期
科 目 名 (単元名)	診療時援助技術 (治療に伴う看護)	単 位 数 (時間数)	2 単位 (60 時間) うち 34 時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	上野 敏幸 (別府医療センター大分中央看護学校・専任教員・看護師 12 年) 岡村 由佳 (別府医療センター・看護師 11 年) 土居 はるか (別府医療センター・看護師 14 年) 山内 勇太 (別府医療センター・看護師 6 年)		
<p><科目目標> 診療援助時に患者が安全・安楽に診察・検査・治療・処置をうけるために必要な知識・援助の技術を身につける。</p> <p><単元目標> 1. 治療に伴う看護技術について理解することができる。 1) 薬物療法、輸液療法、輸血療法の目的、方法をふまえ、薬物療法を受ける患者の看護を理解することができる。 2) 原則に基づいて、安全な与薬の実施ができる。 3) 酸素療法の目的や看護について理解し、実施することができる。</p> <p><内容></p>			
回	授業内容	授業方法	
1	1. 酸素吸入療法を必要とする患者の看護 1) 酸素吸入療法の目的と対象 2) 酸素吸入療法の看護	講義	
2～3	2. 酸素吸入療法の看護 1) 酸素流量計、加湿器の構造 2) 中央配管での酸素流量計の接続方法 3) 鼻カニューレ、フェイスマスク、リザーバーマスクの物品と装着方法 4) 酸素ポンベの取扱法、酸素の残量の見方(計算法) 5) 酸素飽和度の接続方法と酸素飽和度の値が示す意味	講義 演習	
【課題 1】前腕～上腕部、臀部、大腿部の筋肉、神経、血管の解剖図と名称について調べておく。			
4	3. 薬物療法に関する基礎知識 1) 薬物療法の意義・目的 2) 薬物の体内動態 3) 与薬における看護師の役割 4) 薬の管理 薬剤の種類と取り扱い方法	講義	
5～6	4. 与薬種類別の具体的方法と留意事項 1) 経口与薬法 2) 口腔内与薬法 3) 直腸内与薬法 4) 皮膚用製剤の塗布、貼付 5) 点眼・点入法、点鼻法 6) 吸入(噴霧器、超音波ネブライザー、コンプレッサー式ネブライザー)	講義 DVD	
7	5. 与薬の実際 1) 経口与薬法	演習	

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	2 年前期～後期
科 目 名 (単元名)	診療時援助技術 (治療に伴う看護)	単 位 数 (時間数)	2 単位 (60 時間) うち 34 時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	上野 敏幸 (別府医療センター大分中央看護学校・専任教員・看護師 12 年) 岡村 由佳 (別府医療センター・看護師 11 年) 土居 はるか (別府医療センター・看護師 14 年) 山内 勇太 (別府医療センター・看護師 6 年)		

回	授業内容	授業方法
8～9	6. 与薬の実際 1) 注射法の基本知識と実際 (1) 各注射の目的 (2) 各注射の部位 (3) 各注射の方法と留意点 (4) 注射器の取り扱い	講義 DVD 演習
10～11 12～13	7. 与薬の実際 1) 筋肉内注射の実際 (1) 筋肉内注射の方法と留意点	演習
14～16	8. 与薬の実際 1) 静脈内注射と点滴静脈内注射の実際 (輸液療法) (1) 静脈内注射の方法と留意点 (2) 点滴静脈内注射の方法と留意点と副作用の観察	講義 DVD 演習
17	9. 与薬の実際 1) 輸血療法の看護 (1) 輸血療法の適用と種類 (2) 輸血療法の方法と留意点と副作用の観察	講義 DVD

授業の進め方

解剖生理学、薬理学の知識を活かして、薬物療法、輸液療法、輸血療法の目的・方法を講義にて学習する。そのため、提示された解剖図の予習を行い授業に臨む。校内実習では、モデル人形、シミュレーターを使用して、与薬の実際を学習する。酸素吸入療法では酸素吸入や酸素ポンベの取り扱いの実際について演習を行う。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II (医学書院)
2. 看護技術がみえる vol.1 臨床看護技術 第1版(メディックメディア)
3. 看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版(メディックメディア)
4. 系統看護学講座 専門基礎 薬理学(医学書院)

評価方法

1. 筆記試験
2. 実技試験(筋肉内注射)技術試験内容は講義開始時に提示する。

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	2 年前期
科 目 名 (単元名)	診療時援助技術 (処置に伴う看護)	単 位 数 (時間数)	2 単位(60 時間) うち 8 時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	上野 敏幸 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 13 年)		
<p><科目目標> 診療援助時に患者が安全・安楽に診察・検査・治療・処置をうけるために必要な知識・援助の技術を身につける。</p> <p><単元目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 穿刺処置の目的や方法、留意点について理解できる。 2. 吸引の目的と方法の留意点について理解できる。 3. 一時的吸引の実施ができる。 4. 包帯法の種類・方法を理解することができる。 5. 包帯法の原則を守りながら巻軸包帯を巻くことができる。 <p><内容></p>			
回	授業内容	授業方法	
【事前課題】 穿刺の実際に入る前までに以下の課題を行う。 腰椎 (脊髄腔)・胸腔・腹腔・腸骨の解剖生理について学習する。			
1	1. 穿刺 1) 穿刺の目的 検体検査(髄液、胸水、腹水、骨髄液) 2) 穿刺の種類 (1) 腰椎穿刺 (2) 胸腔穿刺 (3) 腹腔穿刺 (4) 骨髄穿刺 3) 各種穿刺方法 4) 穿刺時の看護師の役割	講義 VTR	
2	2. 包帯法 1) 包帯法の目的 2) 包帯の種類 3) 援助の実際 3. 止血法 1) 止血法の目的 2) 止血法の種類 3) 援助の実際	講義 演習	
【課題 2】 吸引に必要な解剖生理学 (口腔・鼻腔・咽頭・肺)			
3	4. 吸引 1) 吸引の目的 2) 吸引の種類(一時的吸引) 3) 吸引の方法と留意事項	講義	
4	5. 一時的吸引の実際 1) 一時的吸引 (鼻腔・口腔内の一時的吸引)	演習	

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	2 年前期
科 目 名 (単元名)	診療時援助技術 (処置に伴う看護)	単 位 数 (時間数)	2 単位(60 時間) うち 8 時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	上野 敏幸 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 13 年)		
<p>授業の進め方</p> <p>医療の高度化、専門化に伴い確実な技術と知識を身につけ、患者が安全・安楽に処置を受けるために必要な援助技術を習得する。吸引に関して、鼻腔・口腔内の一時的吸引を教授し、気管内吸引と持続吸引は成人看護学で教授する。</p>			
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 2. 看護技術がみえる Vol.2 臨床看護技術 第1版(メディックメディア) 			
<p>評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 筆記試験 2. 校内演習後のレポート 			

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	2 年前期															
科 目 名 (単元名)	臨床看護総論 (経過に基づく患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1 単位 (30 時間) うち 10 時間															
講 師 (所属・職位等・実務経験)	平川 真紀 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 12 年)																	
<p><科目目標> 健康障がいをもつ対象を理解し、状態に応じた看護を習得する。主要症状を示す患者の看護や主要な治療に応じた看護、ME 機器に関する内容を習得する。</p> <p><単元目標> 1. 経過に基づく患者の看護を理解する。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 健康の段階の考え方 経過に基づく看護 1) 臨床看護総論を学ぶ目的 2) 経過別看護とは 3) 経過別看護の視点 4) 経過別看護の特性 2. 経過に基づく看護：急性期 1) 急性期とは 2) 急性疾患と急性治療の特性 3) 急性・重症患者と家族の特徴 4) 急性・重症患者の看護 5) 危機理論、ストレス・コーピング理論</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>3. 経過に基づく看護：回復期 1) 回復期とは 2) 回復期患者と家族の特徴 3) 障害の理解 (ICF の概念を使って) 4) 回復期患者の看護 5) 自己効力感 6) 障害の受容過程</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4. 経過に基づく看護：慢性期 1) 慢性期とは 2) 慢性期患者と家族の特徴 3) 慢性疾患の特徴と看護 4) セルフケア、自己管理支援 5) 病みの軌跡、セルフケア理論</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>5. 経過に基づく看護：終末期 1) 終末期とは 2) 終末期患者と家族の特徴 3) 終末期にある患者・家族への看護 4) 死の受容過程、ケアリング 5) 脳死状態への対応</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 健康の段階の考え方 経過に基づく看護 1) 臨床看護総論を学ぶ目的 2) 経過別看護とは 3) 経過別看護の視点 4) 経過別看護の特性 2. 経過に基づく看護：急性期 1) 急性期とは 2) 急性疾患と急性治療の特性 3) 急性・重症患者と家族の特徴 4) 急性・重症患者の看護 5) 危機理論、ストレス・コーピング理論	講義	2	3. 経過に基づく看護：回復期 1) 回復期とは 2) 回復期患者と家族の特徴 3) 障害の理解 (ICF の概念を使って) 4) 回復期患者の看護 5) 自己効力感 6) 障害の受容過程	講義	3	4. 経過に基づく看護：慢性期 1) 慢性期とは 2) 慢性期患者と家族の特徴 3) 慢性疾患の特徴と看護 4) セルフケア、自己管理支援 5) 病みの軌跡、セルフケア理論	講義	4	5. 経過に基づく看護：終末期 1) 終末期とは 2) 終末期患者と家族の特徴 3) 終末期にある患者・家族への看護 4) 死の受容過程、ケアリング 5) 脳死状態への対応	講義
回	授業内容	授業方法																
1	1. 健康の段階の考え方 経過に基づく看護 1) 臨床看護総論を学ぶ目的 2) 経過別看護とは 3) 経過別看護の視点 4) 経過別看護の特性 2. 経過に基づく看護：急性期 1) 急性期とは 2) 急性疾患と急性治療の特性 3) 急性・重症患者と家族の特徴 4) 急性・重症患者の看護 5) 危機理論、ストレス・コーピング理論	講義																
2	3. 経過に基づく看護：回復期 1) 回復期とは 2) 回復期患者と家族の特徴 3) 障害の理解 (ICF の概念を使って) 4) 回復期患者の看護 5) 自己効力感 6) 障害の受容過程	講義																
3	4. 経過に基づく看護：慢性期 1) 慢性期とは 2) 慢性期患者と家族の特徴 3) 慢性疾患の特徴と看護 4) セルフケア、自己管理支援 5) 病みの軌跡、セルフケア理論	講義																
4	5. 経過に基づく看護：終末期 1) 終末期とは 2) 終末期患者と家族の特徴 3) 終末期にある患者・家族への看護 4) 死の受容過程、ケアリング 5) 脳死状態への対応	講義																

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	2 年前期
科 目 名 (単元名)	臨床看護総論 (経過に基づく患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間) うち 10 時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	平川 真紀 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 12 年)		

回	授業内容	授業方法
5	6. 経過に基づく看護：終末期の演習 1) エンゼルケア 2) エンゼルメイク 3) 家族への配慮	演習

授業の進め方

テキストを使用し、講義を行う。また、DVDなどの視聴覚教材を視聴、デモンストレーション、学生同士の模擬練習を行う。また、具体的な事例等の説明で慢性期の「病みの軌跡」を学習する。
各期の看護における対象の身体的・心理的・社会的特徴や看護について学ぶ。

テキスト

1. 新体系看護学全書 専門分野 I 基礎看護学 [4] 臨床看護総論(メヂカルフレンド社)
2. 臨床看護学叢書 2 経過別看護(メヂカルフレンド社)
3. 看護診断のためのよくわかる中範囲理論(学研)

評価方法

提示したレポート、筆記試験、講義・演習の参加状況により総合的に評価する。

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	2 年前期
科 目 名 (単元名)	臨床看護総論 (主要症状を示す患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1 単位 (30 時間) うち 10 時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	大道 真理 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 15 年)		
<p><科目目標> 健康障がいをもつ対象を理解し、状態に応じた看護を理解する。主要症状を示す患者の看護や主要な治療に応じた看護、ME 機器に関する内容を理解する。</p> <p><単元目標> 1. 主要症状を示す患者の看護を理解する。</p> <p><内容></p>			
回	内容	授業方法	
1	1. 症状別看護の考え方 2. 消化器の異常からくる症状と看護①：便秘 1) 便秘の定義・分類、原因・誘因、メカニズム 2) 主要な検査・治療 3) 看護のポイント	講義	
2～3	3. 消化器の異常からくる症状と看護②：悪心・嘔吐 1) 悪心・嘔吐の定義・分類、原因・誘因、メカニズム 2) 主な検査・治療 3) 看護のポイント	演習 グループ ワーク	
	4. 体液異常からくる症状と看護：浮腫 1) 浮腫の定義・分類、原因・誘因、メカニズム 2) 主な検査・治療 3) 看護のポイント (水分出納管理含む)	演習 グループ ワーク	
	5. 呼吸の異常からくる症状と看護：呼吸困難 1) 呼吸困難の定義・分類、原因・誘因、メカニズム 2) 主な検査・治療 3) 看護のポイント	演習 グループ ワーク	
	6. 循環の異常からくる症状と看護：ショック 1) ショックの定義・分類、原因・誘因、メカニズム 2) 主な検査・治療 3) 看護のポイント	演習 グループ ワーク	
	7. 痛みのある患者の看護 1) 痛みのメカニズム 2) 痛みに対する治療 3) 看護のポイント	演習 グループ ワーク	
4	全体発表		
5	まとめ		

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	2 年前期
科 目 名 (単元名)	臨床看護総論 (主要症状を示す患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間) うち 10 時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	大道 真理 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 15 年)		
<p>授業の進め方</p> <p>症状のある患者の事例を通して学ぶ。グループごとに 1 事例を担当し、他者にわかりやすく説明する。特に症状のメカニズムについては関連図をもとに説明する。</p>			
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新体系看護学全書 専門分野 I 基礎看護学 [4] 臨床看護総論(メヂカルフレンド社) 2. 看護過程に沿った対症看護 第 4 版 病態生理と看護のポイント(学研) 			
<p>評価方法</p> <p>筆記試験および課題レポート (個人・グループ)</p> <p>課題レポートが提出期限までに提出されなかった場合は、評価の対象としない。</p>			

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	2 年前期												
科 目 名 (単元名)	臨床看護総論 (治療・処置を受けている患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間) うち 6 時間												
講 師 (所属・職位等・実務経験)	山元 清子 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 24 年) 吉村 幸永 (別府医療センター・がん化学療法認定看護師・看護師 24 年) 木本 理美 (別府医療センター・放射線療法認定看護師・看護師 13 年)														
<p><科目目標> 健康障がいをもつ対象を理解し、状態に応じた看護を学ぶ。主要症状を示す患者の看護や主要な治療に応じた看護、ME 機器に関する内容を習得する。</p> <p><単元目標> 1. 治療・処置を受けている患者の看護を理解する。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 治療法の多様化とインフォームドコンセント —2時間 (講師: 山元 清子) 1) 治療法の多様化 2) インフォームドコンセント 2. リハビリテーションと看護 1) 看護業務の法的範囲と医行為に関連する補助業務について 2) リハビリテーションの特徴と看護 (1) 生活者としてのリハビリテーション (2) リハビリテーションの種類 (3) リハビリテーションにおける看護の役割</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>3. 化学療法と看護 —2時間 (講師: 吉村 幸永) 1) 化学療法を必要とする患者とは 2) 化学療法が患者に及ぼす影響 3) 化学療法を受ける患者の看護 4) 抗がん剤による医療従事者の被爆</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4. 放射線治療と看護 —2時間 (講師: 木本 理美) 1) 放射線療法を必要とする患者とは 2) 放射線療法に伴う有害作用 3) 放射線療法を受ける患者の看護</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 治療法の多様化とインフォームドコンセント —2時間 (講師: 山元 清子) 1) 治療法の多様化 2) インフォームドコンセント 2. リハビリテーションと看護 1) 看護業務の法的範囲と医行為に関連する補助業務について 2) リハビリテーションの特徴と看護 (1) 生活者としてのリハビリテーション (2) リハビリテーションの種類 (3) リハビリテーションにおける看護の役割	講義	2	3. 化学療法と看護 —2時間 (講師: 吉村 幸永) 1) 化学療法を必要とする患者とは 2) 化学療法が患者に及ぼす影響 3) 化学療法を受ける患者の看護 4) 抗がん剤による医療従事者の被爆	講義	3	4. 放射線治療と看護 —2時間 (講師: 木本 理美) 1) 放射線療法を必要とする患者とは 2) 放射線療法に伴う有害作用 3) 放射線療法を受ける患者の看護	講義
回	授業内容	授業方法													
1	1. 治療法の多様化とインフォームドコンセント —2時間 (講師: 山元 清子) 1) 治療法の多様化 2) インフォームドコンセント 2. リハビリテーションと看護 1) 看護業務の法的範囲と医行為に関連する補助業務について 2) リハビリテーションの特徴と看護 (1) 生活者としてのリハビリテーション (2) リハビリテーションの種類 (3) リハビリテーションにおける看護の役割	講義													
2	3. 化学療法と看護 —2時間 (講師: 吉村 幸永) 1) 化学療法を必要とする患者とは 2) 化学療法が患者に及ぼす影響 3) 化学療法を受ける患者の看護 4) 抗がん剤による医療従事者の被爆	講義													
3	4. 放射線治療と看護 —2時間 (講師: 木本 理美) 1) 放射線療法を必要とする患者とは 2) 放射線療法に伴う有害作用 3) 放射線療法を受ける患者の看護	講義													
<p>授業の進め方 具体的な事例を取り入れながら、看護の対象の身体的・心理的・社会的特徴や看護の要点について学ぶ。</p>															
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新体系看護学全書 専門分野 I 基礎看護学 [4] 臨床看護総論(メヂカルフレンド社) 2. 系統看護学講座別巻 リハビリテーション看護(医学書院) 3. 系統看護学講座別巻 臨床放射線医学(医学書院) 															
<p>評価方法 筆記試験</p>															

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	2 年前期									
科 目 名 (単元名)	臨床看護総論 (医療機器の原理と実際)	単 位 数 (時間数)	1 単位 (30 時間) うち 4 時間									
講 師 (所属・職位等・実務経験)	岩熊 秀樹 (別府医療センター・主任臨床工学技士)											
<p><科目目標> 健康障害をもつ対象を理解し、状態に応じた看護を理解する。主要症状を示す患者の看護や主要な治療に応じた看護、ME 機器に関する内容を習得する。</p> <p><単元目標> 1. 医療機器の原理と実際について理解する。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> 1. 医療機器使用の実際 1) ME 機器とは (1) 医療機器の種類 i. 測定用 ME 機器(心電図モニター) ii. 治療用 ME 機器(人工呼吸器、低圧持続吸引器、輸液ポンプ) (2) 医療機器の進歩 2) ME 機器を使用するための基礎知識 (1) 医療機器の安全管理 i. 看護師による医療機器使用の法的根拠 ii. 医療機器の安全な使用 iii. 医療機器のトラブル防止 </td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td> 1. ME 機器取り扱い上の留意事項 2. ME 機器使用時の取り扱い </td> <td>演習</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 医療機器使用の実際 1) ME 機器とは (1) 医療機器の種類 i. 測定用 ME 機器(心電図モニター) ii. 治療用 ME 機器(人工呼吸器、低圧持続吸引器、輸液ポンプ) (2) 医療機器の進歩 2) ME 機器を使用するための基礎知識 (1) 医療機器の安全管理 i. 看護師による医療機器使用の法的根拠 ii. 医療機器の安全な使用 iii. 医療機器のトラブル防止	講義	2	1. ME 機器取り扱い上の留意事項 2. ME 機器使用時の取り扱い	演習
回	授業内容	授業方法										
1	1. 医療機器使用の実際 1) ME 機器とは (1) 医療機器の種類 i. 測定用 ME 機器(心電図モニター) ii. 治療用 ME 機器(人工呼吸器、低圧持続吸引器、輸液ポンプ) (2) 医療機器の進歩 2) ME 機器を使用するための基礎知識 (1) 医療機器の安全管理 i. 看護師による医療機器使用の法的根拠 ii. 医療機器の安全な使用 iii. 医療機器のトラブル防止	講義										
2	1. ME 機器取り扱い上の留意事項 2. ME 機器使用時の取り扱い	演習										
<p>授業の進め方 ME 機器の原理と実際については輸液ポンプ、シリンジポンプの操作を実際に体験する。</p>												
<p>テキスト 1. 新体系看護学全書 専門分野 I 基礎看護学 [4] 臨床看護総論(メヂカルフレンド社)</p>												
<p>評価方法 筆記試験 提示したレポート、授業参加状況により総合的に評価する。</p>												

領 域	専門分野 I (基礎看護学)	開講時期	2 年前期
科 目 名	基礎看護学実習	単 位 数 (時間数)	2 単位 (90 時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	上野 敏幸 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・13 年)		
<p><科目目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち患者を看護の視点でアセスメントすることができる。 2. 受け持ち患者の看護上の問題を明らかにすることができる。 3. 受け持ち患者の個別性を重視した看護の方法を導きだすことができる。 4. 受け持ち患者の日常生活に必要な看護援助を実施できる。 5. 実施した看護援助を評価・考察できる。 6. 対象とよい人間関係を築くことができる。 7. 看護実践を通して、援助の効果や意味を考えることができる。 8. 保健・医療チームの一員としての自覚をもち、専門職業人として望ましい態度がとれる。 <p><学習内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち患者看護を通して、ロイ看護適応モデルの活用による看護過程の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護理論の枠組みを使用した、系統的な情報収集、整理・分析。 2) 非効果的行動に影響を及ぼしている影響因子の特定。 3) 看護診断の導き出し。 4) 看護問題を解決するための目標設定。 5) 看護目標を達成するための具体的な介入計画立案。 2. 基礎看護学で学んだ知識・技術を活用し、対象に応じた日常生活援助の実践 <ol style="list-style-type: none"> 1) 個別性に応じた日常生活援助の実施。 2) 患者の安全・安楽に配慮した援助の実施。 3) 実施した看護援助に対する評価・考察。 3. 患者、患者家族、医療従事者と良好な人間関係を保つためのコミュニケーション技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者の反応に応じたコミュニケーション。 2) 家族の思いに配慮した、家族とのコミュニケーション 4. タイムリーな報告・連絡・相談 5. 看護過程の展開と個別性に応じた看護実践の関連性 <p>※詳細は基礎看護学実習 実習要項に準ずる。</p>			
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院) 2. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I (医学書院) 3. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II (医学書院) 4. ザ・ロイ適応看護モデル 第2版 (医学書院) 5. よくわかる中範囲理論 第2版 (学研) 6. NANDA-I 看護診断 定義と分類<2018/2020> (医学書院) 7. 看護医学電子辞書 <p style="text-align: right;">他 既習のテキストを活用する</p>			
<p>評価方法</p> <p>学則細則第9条「授業科目の評価は講義・演習の授業科目について定期試験と随時試験によって行い、実習の授業科目については平素の実習状況及び内容、提出された諸記録、レポート等を総合して指導者が行う。」に準じて評価する。</p> <p>履修規定第12条3項「実習終了後は指定された期日までに指定のレポート類を提出しなければならない。期日までに提出せず放棄したとみなされる場合は、実習評価表のレポートに関する項目の評定を受けることができない。忌引きその他やむを得ない理由で指定された期日に提出できない場合は期限を指定する。</p>			